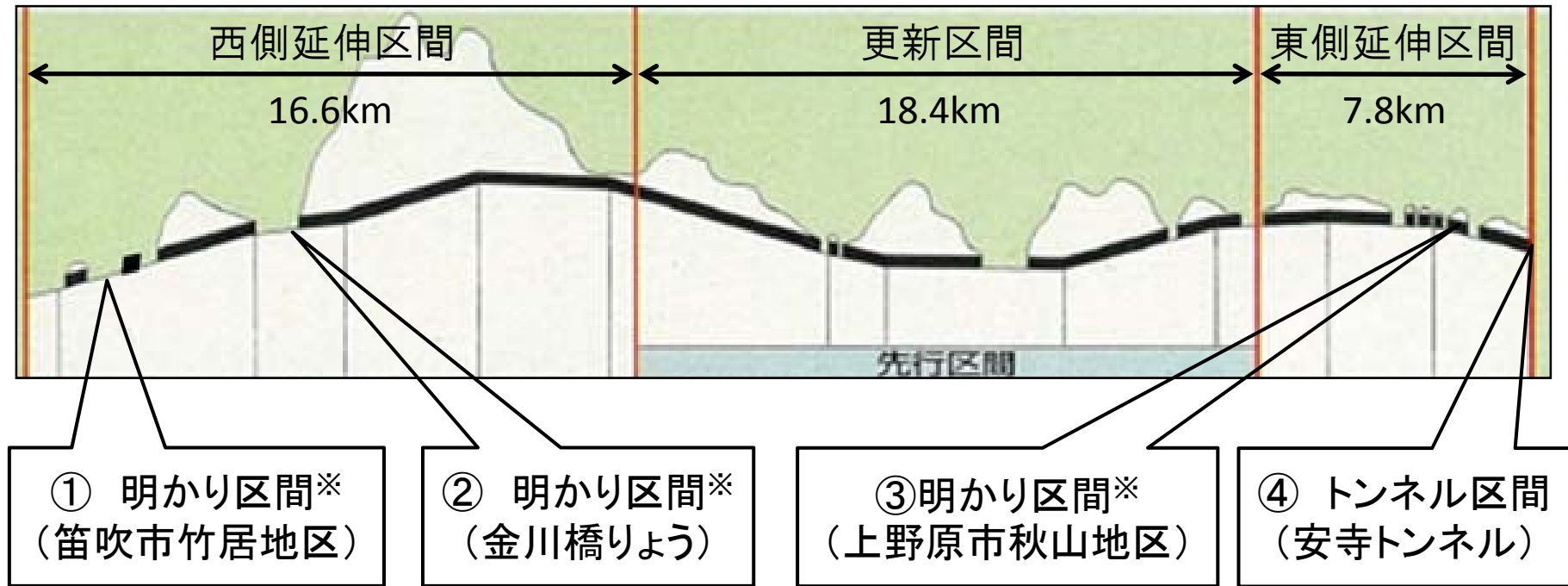


山梨リニア実験線の更新・延伸工事



※明かり区間：トンネル以外の区間

山梨リニア実験線の更新・延伸工事①(明かり区間)

高架橋の工事を施工中



笛吹市竹居地区

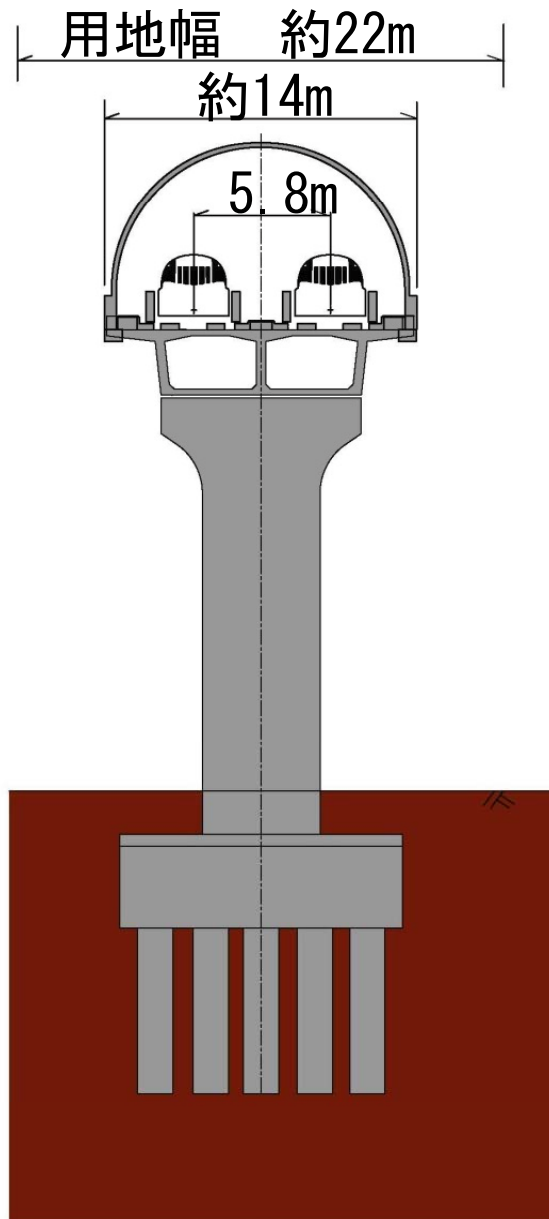
山梨リニア実験線の更新・延伸工事②(明かり区間)

橋りょうの工事を施工中



金川橋りょう

高架橋の標準的な断面図(山梨リニア実験線)



- 延伸工事区間では、高架橋の端から4mの緩衝帯を両側に確保しています。
- 中央新幹線でも同様に緩衝帯を設ける予定です。

山梨リニア実験線の更新・延伸工事③(明かりフード)



上野原市秋山地区(大ノ入明かり区間)

山梨リニア実験線の更新・延伸工事④(トンネル)

安寺トンネルが3月27日に貫通し、これにより全トンネル
(10箇所、全長19.1km)が貫通



安寺トンネル

地元自治体のご協力について

- ・山梨リニア実験線建設に当たり、山梨県及び市町村には、用地取得や関連公共事業にご協力を頂きました。
 - 道路・河川の交差協議等を迅速に処理する体制の整備
 - 用地の取得
 - 工事用道路の整備
 - 発生土処理場の確保

発生土の活用事例(都留市大平)



大平発生土処理場	
面積	約 8 h a
埋立土量	5 5 万 m ³
整備手法等	土地改良事業 (都留市) 道路付替、圃場整備、 河川付替、砂防堰堤新設
土地利用状況	農用地 (田畑)

トンネル掘削土を有効利用し、
谷地を埋め立てて農地として活用



発生土処理について

- 本事業内で再利用、他の公共事業等への有効利用を考えています。
- 新たに発生土処分地を設ける場合には、周辺環境への影響をできる限り回避・低減するよう努めます。
- 発生土を公共事業等で有効に活用していただくための情報提供や発生土処分場は、県を窓口として調整させていただきたいと考えています。
- おおまかな各地域ごとの概算の発生土量は、関係自治体の方々にご協力を頂くために、できる限り早い時期にご提示できるよう努めます。

工事用道路について

- ・できる限り既存道路を活用し、必要に応じて改良を加えて使用する計画です。
- ・新たに工事用道路を設置する場合、工事計画が具体化した段階で環境への影響について、必要な調査を行います。
- ・工事用道路の計画については、工事計画の具体化に合わせて、県・関係市町村、関係機関等と調整を図りながら検討を進めます。

水資源の安定した確保に対する考え方

- ・事前に各種調査(地質調査、水文調査等)を行います。
- ・トンネル工事の前には、地元(水利用者)の皆様にご説明をしながら進めてまいります。
- ・トンネル工事中も河川流量、井戸水位観測、水質調査等の水文調査を行うなど、継続的に監視します。
- ・トンネル工事中に減水などの兆候が認められた地区では、地元の皆様の生活に支障をきたさない事を第一とし、応急対策を実施します。
- ・トンネル工事完了後も流量観測等を継続し、必要に応じて、地元の皆様とお話しをしながら恒久対策を実施します。

生活用水等の安定した確保について

- ・山梨リニア実験線延伸工事では、速やかに応急対策を実施しました。

- 笛吹市御坂町地区

- 簡易水道貯水タンクに笛吹市上水道を接続

- 笛吹市八代町地区

- 自家水道管に笛吹市上水道を接続

- 上野原市秋山地区

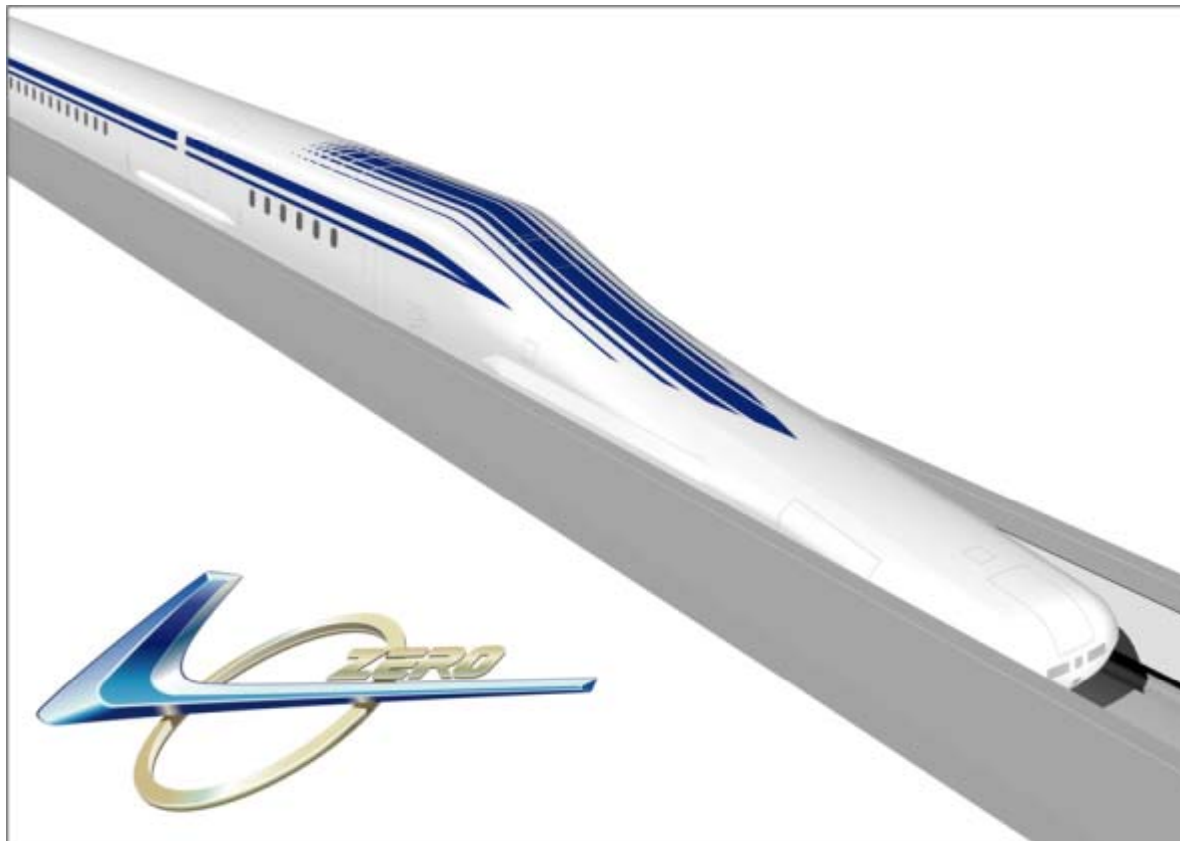
- 共同水源水槽に揚水井戸を接続

山梨リニア実験線先行区間での実績

- | | |
|-----------|------------------|
| ・走行試験期間 | 平成9年4月～平成23年9月 |
| ・最高速度 | 581km/h |
| ・累積走行距離 | 87.8万km(地球約22周分) |
| ・すれ違い相対速度 | 1,026km/h |
| ・連続走行距離 | 2,876km |
| ・試乗者数 | 約14万6千人 |

山梨リニア実験線の今後の予定

- 平成25年末までに、新実験線で走行試験開始
- 東京都～名古屋市間の7分の1が完成
- 新型車両L0系を製作
- 超電導リニア技術のブラッシュアップと建設・運営・保守のコストダウンに取り組む



- 当社は、中央新幹線の実現により、三大都市圏間を結ぶ日本経済の大動脈を二重系化し、高速かつ安定的な旅客輸送を永続的に担ってまいります。
- 今後とも、中央新幹線の早期実現に向け精一杯取り組んでまいりますので、引き続き、関係の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。